

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19 年 9 月 14 日

【評価実施概要】			
事業所番号	3871400200		
法人名	医療法人 竹林院		
事業所名	グループホームかぐや姫		
所在地	西予市野村町野村11号95番地1 (電話) 0894-72-3802		
管理者	小玉弘美		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 19 年 7 月 18 日	評価確定日	平成 19 年 9 月 19 日

【情報提供票より】 (平成 19 年 6 月 20 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 8 月 5 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 11 人, 非常勤 4 人, 常勤換算	人

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円
敷金	有()円 ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 ○ 無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(3) 利用者の概要 (平成 19 年 6 月 20 日事業所記入)

利用者人数	18 名	男性 5 名	女性 13 名
要介護 1	8 名	要介護 2	4 名
要介護 3	5 名	要介護 4	名
要介護 5	名	要支援 2	1 名
年齢	平均 86 歳	最低 68 歳	最高 97 歳

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	なし	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	あり	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】
ホームは開設して3年が経過している。ホームの特徴として、母体法人の病院・居宅介護支援事業所・デイサービスが敷地内にあり、健康管理上安心であることや、利用者の自立度が高く、洋裁・編み物・草取り・掃除等一人ひとりで役割のある生活を楽しんでいること等があげられる。併設のデイサービスを週2回利用しており、中には毎日デイに参加し、終了後の整理整頓の役割を担っている利用者もいる。利用者同士の仲が良く、助け合う場面がみられ、また職員との関係も良好である。職員間の人間関係も良好で、仕事に対する姿勢が前向きであるなど、ホームの状況が良好であることが伺える。

【質向上への取組状況】
▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目：外部4)
前回「洗剤や芳香剤等が利用者の目に触れないよう工夫を望む」と改善課題を出されたが、すぐに対応し、現在は戸棚に整理・保管されている。また、「利用者を含めた避難訓練の実施」との提案に対し、年2回昼夜を想定した訓練を利用者と共に実施している。
▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目：外部4)
職員一人ひとりが全項目を自己評価したものを持ちより、意見統一を図った。自己評価することにより、求められる介護の質を理解すると共に日頃の自分の介護を振り返り、他の職員の考え方も知り、勉強になったと職員は言っている。
▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目：外部4, 5, 6)
運営推進会議の趣旨・経過説明、事業所の基本内容、自己評価・外部評価の説明及び公表、事業所のサービス提供内容、施設見学、利用者の生活の様子などを報告し、検討した。生活の様子は、利用者自らが自身の言葉で報告した。そのことにより、認知症に対する理解も深まり、防災やホーム行事への協力も得られるようになった。また、会議で提案された事項は事業所内幹部会議で検討している。
▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目：外部7, 8)
苦情相談箱を玄関に設置し、入居時も重要事項説明書や入居契約書等で十分説明しているが、あまり利用される事はない。家族会もまだ結成されていない。
▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目：外部3)
利用者は自立度が高く、地域に出かけることが多い。散歩コースや買い物、デイに参加する事で、顔なじみも増えてきている。職員も地域の行事や奉仕活動に率先して参加している。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名

かぐや姫

(ユニット名)

1F

記入者(管理者)

氏 名

岡田ヤス子

評価完了日

19 年 6 月 20 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) かぐや姫独自の理念もあり、各階の理念も作りあげている。 (外部評価) 事業所としての理念があり、その理念を基本に、職員全員で各ユニット毎の介護の目標、私達の目標を作り明記している。地域密着型サービスとして「在宅とホームのつながりを大切にす		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 勉強会、申し送り等で理念にふれ、意見の統一を図っている。 (外部評価) 自分の介護を振り返るとき、理念は常に頭の中に浮かぶ。毎月行う学習会の後、それぞれのユニットにわかれ、理念に対する意見交換も行っている。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 家族には入居時に説明をしている。地域の方には広報誌を活用している。		
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 散歩や買い物に出かけた時、あいさつを交わしたり、話をしたりしている。なかには花や野菜を届けてもらう人もいます。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 近隣の幼・小・中学生との交流の機会がある。地域の奉仕活動に参加している。納涼祭には地域の人に声を掛け参加してもらっている。 (外部評価) 地域で行われる奉仕作業には、職員はもちろん利用者の中にも参加している人もいます。また、近所の商店と仲良くなった利用者もあり、買い物やおしゃべりを楽しむ人もいます。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は 取組みを期待 したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 地域の方から認知症の相談を受けている。人材育成のために、実習生の受入を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 評価結果は今後のケアサービスの質につなげていけるように、全職員で意識統一を図り努力している。		
			(外部評価) 職員一人ひとりが全項目を自己評価したものを持ち寄り意見統一を図った。自己評価することにより求められる介護の質を理解すると共に日頃の自分の介護を反省し、他の職員意見も聞けたと職員は感じている。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) ホームの取り組み内容や具体的な課題を話し、多くの意見を取り入れながら、今後の取り組みに反映している。		
			(外部評価) 会議の構成メンバーに利用者及び家族が含まれ、ホームの日常生活等は利用者自身の言葉で報告している。このことにより、認知症に対する理解も深まり、防災やホーム行事への協力も得られるようになった。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 今後、共同関係が出来るように担当者と会う機会を増やしていきたい。		
			(外部評価) 運営推進会議には、市職員及び地域包括支援センター職員の参加があり、従来より連携が取り易く、書類作成上不明な点を教えてもらったり、相談したりしている。介護相談員も受け入れている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 順次、研修会に参加し勉強している。現在は、制度を必要とする人はいない。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 順次、研修会に参加し勉強している。日々の利用者の声、表情、身体状態などに注意を払っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 十分な説明を行い、理解、納得の上、入居されている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 併設のデイや居宅の職員に相談をされている場合もあり、出た意見は日々のケアに生かしている。介護相談員（年3回程度）が相談にのってもらっている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 定期的な報告をしている。電話や手紙や、面会に来られた時にも報告している。	※	さらに、支出が無くても毎月報告すると家族からの信頼度はより高まると思われるので、検討される事を望む。
			(外部評価) 面会時、居室で日常生活の様子、身体状況等を報告するほか、毎日の請求書送付時に一人ひとり手書きで一筆加えている。金銭管理については残金が少なくなった時に支出状況を添付し、報告している。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会に来られた時には何でも言ってもらえるような雰囲気づくりを心掛けている。出された意見は話し合いを持ち反映させている。	※	重要事項説明書や入居契約書に苦情処理の項目があり、説明しているが、より具体的にホームの相談窓口担当者名、電話番号、公的機関の連絡先等を明記することを期待する。
			(外部評価) 苦情相談箱を玄関に設置し、入居時も重要事項説明書等で十分説明しているが、あまり活用されることはない。今まで投書された内容は「刺身が食べたい」等食事に関するものであった。		
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) コミュニケーションを図るように努め、要望や意見を聞くように心掛けている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 管理者は、状況に応じた対応が出来るように通常のシフトには入っていない。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 離職は少なく、移動はよく検討した上で行っている。馴染みの職員によるケアを心掛けている。 (外部評価) 同系列のホーム新設の際に異動した職員はいるが、離職者は少ない。利用者一人ひとりに職員の担当制をとっているが、介護は全員で行っており、ダメージは無い。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 施設外研修に参加している。できるだけ多くの職員が受講出来るようにしている。 (外部評価) 非常勤職員を含めて毎月1回全員参加の勉強会を開催している。外部研修の情報は連絡ノートを活用し、希望を募る方法をとっている。介護福祉士の資格取得を目指している職員もいる。		
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 西予市グループホーム連絡会、南予グループホーム連絡会があり、情報交換をしながら質の向上に取り組んでいる。 (外部評価) 県グループホーム連絡会に加盟し、南予支部の研修に参加している。新しく開設予定のグループホーム職員の実習先として受け入れをしているほか、管理者間の交流もある。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 職員のストレスや悩みを把握するようにつとめている。職員代表との合同会議を実施している。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 今後、職員個々の状況を把握し、向上心を持って働けるように努めていく。業務とは別に委員会を設定。目的別の活動を行い、向上心を育てている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 利用者の生活のリズム、生活習慣をよく把握し、何を必要としているかを知ろうとしている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 面接等の状況を把握し、家族が何を望んでいるのか、家族の気持ちになって受けとめるよう努力している。		
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時、本人や家族の思い状況を確認し、改善に向けた支援に努めている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 本人や家族に見学に来てもらう事から始める。生活の様子を見てもらったり、併設のデイサービスも生かしている。 (外部評価) 併設デイサービスを利用後に入居されるケースがある。この場合ホーム職員とは顔なじみになっているが、病院から直接入居する利用者には職員が十分配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 利用者に教えてもらう場面を多くもち、声掛けに配慮している。 (外部評価) 昼食後の後片付けは職員から利用者へのお願いの声かけで始まり、穏やかな表情で作業が進む。一段落したところで口腔ケアが始まり、また利用者同士で「車いすを押す」「衣服の乱れを直す」など支えあう姿も見られる。		
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時、生活の様子を話し合う機会を持ち、一緒になって利用者を支えていく為に、同じ思いで支援していることを伝えている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は 取組みを期待 したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に 努め、より良い関係が築いていけるように 支援している	(自己評価) 家族、本人の思いを見極め、外出、外泊で家族と 一緒に過ごす時間がとれるように努めている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの 人や場所との関係が途切れないよう、支援 に努めている	(自己評価) スーパー、美容室、友人宅、お墓参りなど、継続 した支援を行っている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが 孤立せずに利用者同士が関わり合い、支 え合えるように努めている	(自己評価) 声掛けしたり、職員が間に入りながら、うまく関 係が築けるようにしている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継 続的な関わりを必要とする利用者や家族に は、関係を断ち切らないつきあいを大切に している	(自己評価) 長期入院の場合は、続けて様子伺いに行ってい る。他の施設に行かれた方は、時々、顔を見に 行っている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意 向の把握に努めている。困難な場合は、本 人本位に検討している	(自己評価) 本人の希望や要望を受入れた対応をしているが、困難な場 合は家族の協力を得ている。		
			(外部評価) 入居前の面談により認定調査票を活用してアセスメントし ているが、身体面以外の情報は少ない。職員は日々の介護 の中で意向の把握に努め、補足しているが、その内容が十 分記録・蓄積されているとは言えない。	※	利用者が地域で何をし、何を考え、何を大切にしてきた か…等、利用者の人生観を含めた生活歴を把握できるよ うに、記録のあり方を工夫することを期待する。
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし 方、生活環境、これまでのサービス利用の 経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前面接時、家族、本人から聞き把握している。 又、面会者の話や日常の生活の中で、これまでの 暮らしを知る事が出来る。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状 態、有する力等の現状を総合的に把握する ように努めている	(自己評価) 個人の性格、習慣を把握し、できる事、分かる力 を生活の中で見つけていく事に努めている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 本人、家族の思いや意見を聞いて、反映させるようにしている。 (外部評価) 個人別の介護記録に日々の暮らしを記入するほか、本人や家族からの希望も記録している。1か月毎に個人別介護記録を施設介護支援経過表に整理し、それに基づき担当学会議を開き、計画を作成している。	※	介護計画作成に至る経過は丁寧でホームの意気込みを感じるが、いつ・どこで・誰が・どんな時・どんな意見や感想を述べたか等の記録の仕方を検討されることを期待する。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 状態変化に合わせて、サービスの見直しを行っている。 (外部評価) 本人、家族の希望を聞き、サービス担当学会議を開催し、3か月に1回の見直しが行われている。また、状況変化による見直しの必要な時も、毎月まとめられている施設介護支援経過票が有効に活用されている。		
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別に記録している。利用者の生活の様子が分かるように記録されている。記録を基に介護計画の見直しに生かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) デイサービスの利用、併設されている病院への受診、物療、リハビリなど、その時の要望に応じて対応している。 (外部評価) 併設のデイサービスを基本的には週2回利用できるほか、法人代表の経営する医療機関や町内の病院受診の介助も行っている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は 取組みを期待 したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員 やボランティア、警察、消防、文化・教育 機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 公民館、図書館等、利用する機会はある。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の ケアマネジャーやサービス事業者と話し 合い、他のサービスを利用するための支援 をしている	(自己評価) 今までは、必要なかったが、今後、活用出来るよ うにしていきたい。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護 や総合的かつ長期的なケアマネジメント等 について、地域包括支援センターと協働し ている	(自己評価) 今は協働していないが、今後解決出来ない問題が できた時には、協働し支援に努めていきたい。		
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得 が得られたかかりつけ医と事業所の関係を 築きながら、適切な医療を受けられるよう に支援している	(自己評価) 本人、家族が希望するかかりつけの病院になっ ている。必要なら、訪問診察に来てもらっている。 (外部評価) 入居時に本人及び家族と相談しているが、内科系 疾患で治療中の人以外は、ホームと同敷地内にあ る法人運営の医療機関に変更する利用者が多い。 従来からのかかりつけ医を継続する場合も受診介 助している。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築 きながら、職員が相談したり、利用者が認 知症に関する診断や治療を受けられるよう 支援している	(自己評価) 心療内科受診時に、相談にのってもらい、指示、 助言をもらっている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域 の看護職と気軽に相談しながら、日常の健 康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 看護職がない為、併設病院、看護師との連携が とれる体制が確保されている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせる よう、また、できるだけ早期に退院できる ように、病院関係者との情報交換や相談に 努めている。あるいは、そうした場合に備 えて連携している	(自己評価) 入院時には、頻繁に見舞いに行き、情報交換しな がら退院支援に結びつけている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 今のところ重度者や終末期の方をサービス対象とはしていない。利用者、家族が安心してサービス利用が出来るように日頃の健康管理や急変時の対応が出来るように話合っている。 (外部評価) ホームとして、重度化した場合や終末期を迎えた方の介護を利用対象としていなかったが、近い将来起こりうることであり、職員からも「対応できるよう学習したい」と積極的な発言が見られた。	※	「看取りに関する指針」が作成されており、職員も法人代表から学習を求められている。双方の気持ちが一致していることから、今後の検討・取組みに期待したい。
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 併設病院との医療連携体制は整っている。今後、重度化や終末期に向けた支援について検討、準備をする考えはある。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 話し合いを十分に持ち、本人の不安を取り除くように努める。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 勉強会や申し送り時に、利用者への関わりかた、声のかけ方等、配慮した対応が出来るようにしている。 (外部評価) 利用者への言葉かけや対応について、勉強会や申し送り時に意識統一するようにしている。職員の利用者への言葉かけは多いが、尊厳を傷つける場面は見られなかった。また、面会時の扱いにも配慮が見られた。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 一人一人に合った声掛けをし、利用者が自分で決める場面を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 買い物、散歩、趣味の時間など、一人一人の思いに配慮しながら柔軟な対応をしている。 (外部評価) 一人で買い物に行きたい人、庭の草取りをしたい人、併設のデイに毎日参加したい人など、それぞれ本人の希望に沿えるよう支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) これまでの行きつけの理、美容院に行かれている。個性を尊重した、身だしなみが出来るように支援している。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 旬の野菜を取り入れ、盛りつけにも色どりを工夫されている。 (外部評価) 基本的に食材はスーパーに注文し、配達してもらっている。3日に1度の割合で地域に食品販売車が回ってくるので、利用者も購入している。食事は誤嚥を防ぐため、あまりあまり話しかけず静かに食べる事に集中している様子で、全量摂取の利用者が多かった。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 飲み物、おやつなど、好みの物を出している。		
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄記録をチェックし、個人のパターンを把握してトイレ誘導を行っている。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 希望があれば、曜日、時間を変更した対応をしている。 (外部評価) 入浴チェック表があり、週3回は入浴して欲しいと職員は考えている。様々な工夫をしても1か月間入浴を拒否した利用者には、医師から声かけしてもらうことで解決した例もある。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 温かい飲み物を準備したり、寝つけない時には添い寝したり、話につき合うなどして配慮する。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 得意とする能力を発揮できるような場面づくりや、何か役割のある生活が送れるように支援している。 (外部評価) 洋裁・編み物・草取り・掃除等利用者一人ひとりが役割のある生活を楽しんでいる。また、併設のデイ終了後は、職員に協力してデイルームの整理整頓を役割にしている利用者もいる。		
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 能力に応じて管理してもらっている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 勤務状態や内容により、希望にそえない事もあるが、出来るだけ希望に応じた対応をしている。 (外部評価) 業務の都合で職員が付き添うことができない場合もあるが、ひとりで出かけることを強く希望する人には見守りに対応し、近所の店まで2～3人のグループで出かけることが可能な場合はその支援を行う等、できる限りの細やかな配慮をしている。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 希望あれば計画を立てて外出をしている。場所によっては家族にお願いすることもある。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望に応じて手紙や電話をしたり出来るように支援している。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は 取組みを期待 したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 気持ちの良い声掛け対応をし、気軽に来やすい雰囲気づくりを心掛けている。		
(4)安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日々の申し送りや勉強会において身体拘束に関する理解と認識を図っている。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 昼間は施錠はしていないが、夜間は一人での対応となるため、一時的に施錠せざるおえないこともある。 (外部評価) ホームは居宅介護支援事業所とデイサービスが併設され、玄関は共有している。日中、鍵をかけることはない。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 昼間は利用者と同一空間で仕事をしており、利用者の状況を把握することが出来ている。夜間は巡視を行い、安全を確認している。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 利用者の状態変化に合わせた対応をしている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) ヒヤリハット、事故報告書を記録し、予防について話し合い、職員間の共有認識を図っている。		
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 定期的に消防署による救急法の研修を実施している。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は 取組みを期 待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 消防署の協力を得て、年2回の避難訓練を行っている。 (外部評価) 消防署の指導のもと、年2回昼夜を想定した避難訓練の全行程を利用者と共に実施している。運営推進会議参加メンバーの協力で地域の理解も得られ、災害発生に関しての不安は縮小している。		
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 問題解決の為、できるだけ早く家族に連絡報告し、対応している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 普段と様子が違う時には、バイタルチェックを行い、様子を見ながら状態により受診につなげている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋のコピーを整理し、職員が内容を把握出来るようにしている。		
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 食材を工夫したり、運動を働きかけたり、水分を多く飲用してもらうなどしている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後、声掛けを行い能力に応じて職員が介助を行っている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士に献立を作成してもらっている。食事摂取量は記録してもらっている。 (外部評価) 献立は協力病院の栄養士が作成し、バイタルチェック表で一人ひとりの食事摂取量を記録しているが、水分量の記録は無い。1日の摂取カロリー1200kcal、水分1000cc以上と決めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 職員、利用者は全員インフルエンザ予防接種を受けている。感染症の勉強は行っている。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 食材は日付をつけて鮮度や状態が分かるようにしている。調理用具は日光消毒や漂白し、清潔を心掛けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 広く明るく、プランターには季節の花が咲いている。椅子も置いあり、ゆっくりできるスペースもある。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使いやすい配置にしたり、生活感、季節感のある物をうまく活用している。		
			(外部評価) 居心地のよい共用空間である。畳スペースは洋裁や貼り絵をする人が使い、ソファ・いすにはクッションも置かれ、それぞれ自分の居場所も決まっているように見える。壁や机の上には創作品が飾られている。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 廊下、ホールにはテーブルや椅子があり利用者同士と楽しめるような居場所や環境作りをしている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 利用者の馴染みの物や好みの物を生活の中に持ち込まれている。		
			(外部評価) 利用者にとって馴染みの物品を持つ意味は大きいと思われるが、家族は「新しい建物に古いものは馴染まないだろう」と遠慮するむきがある。居室にはダンスや椅子等が持ち込まれているが、新しいものが多い。	※	今後とも、本人や家族と根気よく話しあっていくことを望む。

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 空気の入れ換えは常時おこなっている。利用者の声や様子を見ながら温度調節をしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 利用者の状態変化に合わせて手すりをつけたり、福祉用具を利用して少しでも自立した生活が送れるように支援している。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 一人一人のわかる力を見極めて、混乱を最少限におさえられるように対応している。		
87		○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 庭に花を植えたり、畑に野菜を植えて世話をすることで楽しみながら活動できる場となっている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の (自己 2 利用者の 2 / 3 くらいの 評価) 3 利用者の 1 / 3 くらいの 4 ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある (自己 2 数日に 1 回程度ある 評価) 3 たまにある 4 ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の 2 / 3 くらいが 評価) 3 利用者の 1 / 3 くらいが 4 ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の 2 / 3 くらいが 評価) 3 利用者の 1 / 3 くらいが 4 ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ②利用者の 2 / 3 くらいが 評価) 3 利用者の 1 / 3 くらいが 4 ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の 2 / 3 くらいが 評価) 3 利用者の 1 / 3 くらいが 4 ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の 2 / 3 くらいが 評価) 3 利用者の 1 / 3 くらいが 4 ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	1 ほぼ全ての家族と (自己 ②家族の 2 / 3 くらいと 評価) 3 家族の 1 / 3 くらいと 4 ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	1 ほぼ毎日のように (自己 2 数日に1回程度 評価) ③たまに 4 ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている (自己 ②少しずつ増えている 評価) ③あまり増えていない ④全くいない	グループホームに関心が見られ、入居の問い合わせがある。
98	職員は、活き活きと働けている	①ほぼ全ての職員が (自己 ②職員の2/3くらいが 評価) ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない	日々のコミュニケーションがとれており、人間関係がよく明るく働ける職場である。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が (自己 ②利用者の2/3くらいが 評価) ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	利用者から感謝の言葉や笑顔が返ってくる。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が (自己 ②家族等の2/3くらいが 評価) ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない	家族の方に感謝の言葉をかけてもらうことが多い。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

- ・併設、ディサービスの利用が自由に出来る。
- ・併設に病院があり、希望に応じた受診、物療、リハビリが出来る。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名

かぐや姫

(ユニット名)

2F

記入者(管理者)

氏 名

竹田由利子

評価完了日

19 年 6 月 20 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) かぐや姫独自の理念もあり、各階の理念も作りあげている。 (外部評価) 事業所としての理念があり、その理念を基本に、職員全員で各ユニット毎の介護の目標、私達の目標を作り明記している。地域密着型サービスとして「在宅とホームのつながりを大切にする」と表現されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 勉強会、申し送り等で理念にふれ、意見の統一を図っている。 (外部評価) 自分の介護を振り返るとき、理念は常に頭の中に浮かぶ。毎月行う学習会の後、それぞれのユニットにわかれ、理念に対する意見交換も行っている。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 家族には入居時に説明をしている。地域の方には広報誌を活用している。		
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 散歩や買い物に出かけた時、あいさつを交わしたり、話をしたりしている。なかには花や野菜を届けてもらう人もいます。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 近隣の幼・小・中学生との交流の機会がある。地域の奉仕活動に参加している。納涼祭には地域の人に声を掛け参加してもらっている。 (外部評価) 地域で行われる奉仕作業には、職員はもちろん利用者の中にも参加している人もいます。また、近所の商店と仲良くなった利用者もあり、買い物やおしゃべりを楽しむ人もいます。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は 取組みを期 待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 地域の方から認知症の相談を受けている。人材育成のために、実習生の受入を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 評価結果は今後のケアサービスの質につなげていけるように、全職員で意識統一を図り努力している。 (外部評価) 職員一人ひとりが全項目を自己評価したものを持ち寄り意見統一を図った。自己評価することにより求められる介護の質を理解すると共に日頃の自分の介護を反省し、他の職員意見も聞けたと職員は感じている。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) ホームの取り組み内容や具体的な課題を話し、多くの意見を取り入れながら、今後の取り組みに反映している。 (外部評価) 会議の構成メンバーに利用者及び家族が含まれ、ホームの日常生活等は利用者自身の言葉で報告している。このことにより、認知症に対する理解も深まり、防災やホーム行事への協力も得られるようになった。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 今後、共同関係が出来るように担当者と会う機会を増やしていきたい。 (外部評価) 運営推進会議には、市職員及び地域包括支援センター職員の参加があり、従来より連携が取り易く、書類作成上不明な点を教えてもらったり、相談したりしている。介護相談員も受け入れている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 順次、研修会に参加し勉強している。現在は、制度を必要とする人はいない。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 順次、研修会に参加し勉強している。日々の利用者の声、表情、身体状態などに注意を払っている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は 取組みを期待 したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 十分な説明を行い、理解、納得の上、入居されている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 併設のデイや居宅の職員に相談をされている場合もあり、出た意見は日々のケアに生かしている。介護相談員(年3回程度)が相談にのってもらっている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 定期的な報告をしている。電話や手紙や、面会に来られた時にも報告している。		
			(外部評価) 面会時、居室で日常生活の様子、身体状況等を報告するほか、毎日の請求書送付時に一人ひとり手書きで一筆加えている。金銭管理については残金が少なくなった時に支出状況を添付し、報告している。	※	さらに、支出が無くても毎月報告すると家族からの信頼度はより高まると思われるので、検討される事を望む。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会に来られた時には何でも言ってもらえるような雰囲気づくりを心掛けている。出された意見は話し合いを持ち反映させている。		
			(外部評価) 苦情相談箱を玄関に設置し、入居時も重要事項説明書等で十分説明しているが、あまり活用されることはない。今まで投書された内容は「刺身が食べたい」等食事に関するものであった。	※	重要事項説明書や入居契約書に苦情処理の項目があり、説明しているが、より具体的にホームの相談窓口担当者名、電話番号、公的機関の連絡先等を明記することを期待する。
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) コミュニケーションを図るように努め、要望や意見を聞くように心掛けている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 管理者は、状況に応じた対応が出来るように通常のシフトには入っていない。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 離職は少なく、移動はよく検討した上で行っている。馴染みの職員によるケアを心掛けている。 (外部評価) 同系列のホーム新設の際に異動した職員はいるが、離職者は少ない。利用者一人ひとりに職員の担当制をとっているが、介護は全員で行っており、ダメージは無い。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 施設外研修に参加している。できるだけ多くの職員が受講出来るようにしている。 (外部評価) 非常勤職員を含めて毎月1回全員参加の勉強会を開催している。外部研修の情報は連絡ノートを活用し、希望を募る方法をとっている。介護福祉士の資格取得を目指している職員もいる。		
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 西予市グループホーム連絡会、南予グループホーム連絡会があり、情報交換をしながら質の向上に取り組んでいる。 (外部評価) 県グループホーム連絡会に加盟し、南予支部の研修に参加している。新しく開設予定のグループホーム職員の実習先として受け入れをしているほか、管理者間の交流もある。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 職員のストレスや悩みを把握するようにつとめている。職員代表との合同会議を実施している。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 今後、職員個々の状況を把握し、向上心を持って働けるように努めていく。業務とは別に委員会を設定。目的別の活動を行い、向上心を育てている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 利用者の生活のリズム、生活習慣をよく把握し、何を必要としているかを知ろうとしている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 面接等の状況を把握し、家族が何を望んでいるのか、家族の気持ちになって受けとめるよう努力している。		
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時、本人や家族の思い状況を確認し、改善に向けた支援に努めている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 本人や家族に見学に来てもらう事から始める。生活の様子を見てもらったり、併設のデイサービスも生かしている。 (外部評価) 併設デイサービスを利用後に入居されるケースがある。この場合ホーム職員とは顔なじみになっているが、病院から直接入居する利用者には職員が十分配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 利用者に教えてもらう場面を多くもち、声掛けに配慮している。 (外部評価) 昼食後の後片付けは職員から利用者へのお願いの声かけで始まり、穏やかな表情で作業が進む。一段落したところで口腔ケアが始まり、また利用者同士で「車いすを押す」「衣服の乱れを直す」など支えあう姿も見られる。		
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時、生活の様子を話し合う機会を持ち、一緒になって利用者を支えていく為に、同じ思いで支援していることを伝えている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 家族、本人の思いを見極め、外出、外泊で家族と一緒に過ごす時間がとれるように努めている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) スーパー、美容室、友人宅、お墓参りなど、継続した支援を行っている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 声掛けしたり、職員が間に入りながら、うまく関係が築けるようにしている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 長期入院の場合は、続けて様子伺いに行っている。他の施設に行かれた方は、時々、顔を見に行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の希望や要望を受入れた対応をしているが、困難な場合は家族の協力を得ている。 (外部評価) 入居前の面談により認定調査票を活用してアセスメントしているが、身体面以外の情報は少ない。職員は日々の介護の中で意向の把握に努め、補足しているが、その内容が十分記録・蓄積されているとは言えない。	※	利用者が地域で何をし、何を考え、何を大切にしてきたか…等、利用者の人生観を含めた生活歴を把握できるように、記録のあり方を工夫することを期待する。
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前面接時、家族、本人から聞き把握している。又、面会者の話や日常の生活の中で、これまでの暮らしを知る事が出来る。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 個人の性格、習慣を把握し、できる事、分かる力を生活の中で見つけていく事に努めている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 本人、家族の思いや意見を聞いて、反映させるようにしている。		
			(外部評価) 個人別の介護記録に日々の暮らしを記入するほか、本人や家族からの希望も記録している。1か月毎に個人別介護記録を施設介護支援経過表に整理し、それに基づき担当者会議を開き、計画を作成している。	※	介護計画作成に至る経過は丁寧でホームの意気込みを感じるが、いつ・どこで・誰が・どんな時・どんな意見や感想を述べたか等の記録の仕方を検討されることを期待する。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 状態変化に合わせて、サービスの見直しを行っている。		
			(外部評価) 本人、家族の希望を聞き、サービス担当者会議を開催し、3か月に1回の見直しが行われている。また、状況変化による見直しの必要な時も、毎月まとめられている施設介護支援経過票が有効に活用されている。		
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別に記録をしている。利用者の生活の様子が分かるように記録されている。記録を基に介護計画の見直しに生かしている。		
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) デイサービスの利用、併設されている病院への受診、物療、リハビリなど、その時の要望に応じて対応している。		
			(外部評価) 併設のデイサービスを基本的には週2回利用できるほか、法人代表の経営する医療機関や町内の病院受診の介助も行っている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 公民館、図書館等、利用する機会はある。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 今までは、必要なかったが、今後、活用出来るようにしていきたい。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 今は協働していないが、今後解決出来ない問題ができた時には、協働し支援に努めていきたい。		
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 本人、家族が希望するかかりつけの病院になっている。必要なら、訪問診察に来てもらっている。 (外部評価) 入居時に本人及び家族と相談しているが、内科系疾患で治療中の人以外は、ホームと同敷地内にある法人運営の医療機関に変更する利用者が多い。従来からのかかりつけ医を継続する場合も受診介助している。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 心療内科受診時に、相談にのってもらい、指示、助言をもらっている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 看護職がいない為、併設病院、看護師との連携がとれる体制が確保されている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院時には、頻繁に見舞いに行き、情報交換しながら退院支援に結びつけている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 今のところ重度者や終末期の方をサービス対象とはしていない。利用者、家族が安心してサービス利用が出来るように日頃の健康管理や急変時の対応が出来るように話合っている。 (外部評価) ホームとして、重度化した場合や終末期を迎えた方の介護を利用対象としていなかったが、近い将来起こりうることであり、職員からも「対応できるよう学習したい」と積極的な発言が見られた。	※	「看取りに関する指針」が作成されており、職員も法人代表から学習を求められている。双方の気持ちが一致していることから、今後の検討・取り組みに期待したい。
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 併設病院との医療連携体制は整っている。今後、重度化や終末期に向けた支援について検討、準備をする考えはある。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 話し合いを十分に持ち、本人の不安を取り除くように努める。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 勉強会や申し送り時に、利用者への関わりかた、声のかけ方等、配慮した対応が出来るようにしている。 (外部評価) 利用者への言葉かけや対応について、勉強会や申し送り時に意識統一するようにしている。職員の利用者への言葉かけは多いが、尊厳を傷つける場面は見られなかった。また、面会時の扱いにも配慮が見られた。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 一人一人に合った声掛けをし、利用者が自分で決める場面を作っている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は 取組みを期 待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 買い物、散歩、趣味の時間など、一人一人の思いに配慮しながら柔軟な対応をしている。 (外部評価) 一人で買い物に行きたい人、庭の草取りをしたい人、併設のデイに毎日参加したい人など、それぞれ本人の希望に沿えるよう支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) これまでの行きつけの理、美容院に行かれています。個性を尊重した、身だしなみが出来るように支援している。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 旬の野菜を取り入れ、盛りつけにも色どりを工夫されている。 (外部評価) 基本的に食材はスーパーに注文し、配達してもらっている。3日に1度の割合で地域に食品販売車が回ってくるので、利用者も購入している。食事は誤嚥を防ぐため、あまりあまり話しかけず静かに食べる事に集中している様子で、全量摂取の利用者が多かった。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 飲み物、おやつなど、好みの物を出している。		
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄記録をチェックし、個人のパターンを把握してトイレ誘導を行っている。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 希望があれば、曜日、時間を変更した対応をしている。 (外部評価) 入浴チェック表があり、週3回は入浴して欲しいと職員は考えている。様々な工夫をしても1か月間入浴を拒否した利用者には、医師から声かけしてもらうことで解決した例もある。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 温かい飲み物を準備したり、寝つけない時には添い寝したり、話につき合うなどして配慮する。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 得意とする能力を発揮できるような場面づくりや、何か役割のある生活が送れるように支援している。 (外部評価) 洋裁・編み物・草取り・掃除等利用者一人ひとりが役割のある生活を楽しんでいる。また、併設のデイ終了後は、職員に協力してデイルームの整理整頓を役割にしている利用者もいる。		
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 能力に応じて管理してもらっている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 勤務状態や内容により、希望にそえない事もあるが、出来るだけ希望に応じた対応をしている。 (外部評価) 業務の都合で職員が付き添うことができない場合もあるが、ひとりで出かけることを強く希望する人には見守りで対応し、近所の店まで2～3人のグループで出かけることが可能な場合はその支援を行う等、できる限りの細やかな配慮をしている。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 希望あれば計画を立てて外出をしている。場所によっては家族にお願いすることもある。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望に応じて手紙や電話をしたり出来るように支援している。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は 取組みを期待 したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 気持ちの良い声掛け対応をし、気軽に来やすい雰囲気づくりを心掛けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日々の申し送りや勉強会において身体拘束に関する理解と認識を図っている。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 昼間は施錠はしていないが、夜間は一人での対応となるため、一時的に施錠せざるおえないこともある。 (外部評価) ホームは居宅介護支援事業所とデイサービスが併設され、玄関は共有している。日中、鍵をかけることはない。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 昼間は利用者と同じ空間で仕事をしており、利用者の状況を把握することが出来ている。夜間は巡視を行い、安全を確認している。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 利用者の状態変化に合わせた対応をしている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) ヒヤリハット、事故報告書を記録し、予防について話し合い、職員間の共有認識を図っている。		
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 定期的に消防署による救急法の研修を実施している。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は 取組みを期待 したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 消防署の協力を得て、年2回の避難訓練を行っている。 (外部評価) 消防署の指導のもと、年2回昼夜を想定した避難訓練の全行程を利用者と共に実施している。運営推進会議参加メンバーの協力で地域の理解も得られ、災害発生に関しての不安は縮小している。		
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	(自己評価) 問題解決の為、できるだけ早く家族に連絡報告し、対応している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 普段と様子が違う時には、バイタルチェックを行い、様子を見ながら状態により受診につなげている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋のコピーを整理し、職員が内容を把握出来るようにしている。		
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 食材を工夫したり、運動を働きかけたり、水分を多く飲用してもらうなどしている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後、声掛けを行い能力に応じて職員が介助を行っている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士に献立を作成してもらっている。食事摂取量は記録してもらっている。 (外部評価) 献立は協力病院の栄養士が作成し、バイタルチェック表で一人ひとりの食事摂取量を記録しているが、水分量の記録は無い。1日の摂取カロリー1200kcal、水分1000cc以上と決めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 職員、利用者は全員インフルエンザ予防接種を受けている。感染症の勉強は行っている。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 食材は日付をつけて鮮度や状態が分かるようにしている。調理用具は日光消毒や漂白し、清潔を心掛けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 広く明るく、プランターには季節の花が咲いている。椅子も置いあり、ゆっくりできるスペースもある。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使いやすい配置にしたり、生活感、季節感のある物をうまく活用している。		
			(外部評価) 居心地のよい共用空間である。畳スペースは洋裁や貼り絵をする人が使い、ソファ・いすにはクッションも置かれ、それぞれ自分の居場所も決まっているように見える。壁や机の上には創作品が飾られている。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 廊下、ホールにはテーブルや椅子があり利用者同士と楽しめるような居場所や環境作りをしている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 利用者の馴染みの物や好みの物を生活の中に持ち込まれている。		
			(外部評価) 利用者にとって馴染みの物品を持つ意味は大きいと思われるが、家族は「新しい建物に古いものは馴染まないだろう」と遠慮するむきがある。居室にはタンスや椅子等が持ち込まれているが、新しいものが多い。	※	今後とも、本人や家族と根気よく話しあっていくことを望む。

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 空気の入れ換えは常時おこなっている。利用者の声や様子を見ながら温度調節をしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 利用者の状態変化に合わせて手すりをつけたり、福祉用具を利用して少しでも自立した生活が送れるように支援している。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 一人一人のわかる力を見極めて、混乱を最少限におさえられるように対応している。		
87		○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 庭に花を植えたり、畑に野菜を植えて世話をすることで楽しみながら活動できる場となっている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の (自己 2 利用者の 2 / 3 くらいの 評価) 3 利用者の 1 / 3 くらいの 4 ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある (自己 2 数日に 1 回程度ある 評価) 3 たまにある 4 ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の 2 / 3 くらいが 評価) 3 利用者の 1 / 3 くらいが 4 ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の 2 / 3 くらいが 評価) 3 利用者の 1 / 3 くらいが 4 ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ②利用者の 2 / 3 くらいが 評価) 3 利用者の 1 / 3 くらいが 4 ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の 2 / 3 くらいが 評価) 3 利用者の 1 / 3 くらいが 4 ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の 2 / 3 くらいが 評価) 3 利用者の 1 / 3 くらいが 4 ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	1 ほぼ全ての家族と (自己 ②家族の 2 / 3 くらいと 評価) 3 家族の 1 / 3 くらいと 4 ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	1 ほぼ毎日のように (自己 2 数日に1回程度 評価) ③たまに 4 ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている (自己 ②少しずつ増えている 評価) ③あまり増えていない ④全くいない	グループホームに関心が見られ、入居の問い合わせがある。
98	職員は、活き活きと働けている	①ほぼ全ての職員が (自己 ②職員の2/3くらいが 評価) ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない	日々のコミュニケーションがとれており、人間関係がよく明るく働ける職場である。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が (自己 ②利用者の2/3くらいが 評価) ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	利用者から感謝の言葉や笑顔が返ってくる。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が (自己 ②家族等の2/3くらいが 評価) ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない	家族の方に感謝の言葉をかけてもらうことが多い。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

- ・併設、ディサービスの利用が自由に出来る。
- ・併設に病院があり、希望に応じた受診、物療、リハビリが出来る。